

最新の燃費技術や洗練されたデザインを併せ持ち世界規模で販売を伸ばすドイツ車。その本国で今「一番格好いい」と注目を集めるのが、生産して30年以上たつレトロ車だ。自動車ファンはあこがれの思いを込め「オールドタイム」と呼ぶ。独政府が減税などの優遇制度を導入したことで人気は高まる一方、若葉が芽吹き欧州が最も美しいこの時期、オールドタイムの出番だ。

「手入れのときのオイルのにおい。休日に息子たちとドライブ。人生に欠かせない楽しみの1つ」。独フランクフルト郊外に暮らす銀行マンのニコラス・ツィンテルさん(40)は、オールドタイム愛好家。現在、1968年製「メルセデス・ベンツ280SL」など4台を持つ。お気に入りのは70年製「ポルシェ911S」。2年前に英国

のオークションに出向いて2万1千ポンド(約280万円)で手に入れた。ト市郊外に済むローラン・ド・ベルナーさん(70)は10年前に買った66年製のイタリア製小型車「フットモーター500」を大切に乗り続ける。「最近の電子制御は複雑。メカで動く車に愛着を感じる」と話す。

憧れのレトロ車 独を快走

生産から30年超、税優遇



愛車の70年製「ポルシェ911S」を磨き上げるツィンテルさん。標識の末尾には「H」ナンバーが光る

歴史的価値に敬意の念
人気沸騰、投資対象にも

世界
いまを刻む

新車とレトロ車では街行く人々の反応が違ってくる。ツィンテルさんは新型のポルシェ911Sも所有しているが「正直言ってねたみの視線を感じる」ことが多い。一方、70年製の911Sでは「親指を立てて、いいねのサインを送ってくれる」。自国が生み出した名車への敬意の念を感じながら運転するのも気分がいいはずだ。

「主力産業の伝統と価値を次世代に受け継ぐ(独政府)狙いから、最初の登録から30年以上経過した車向けにその歴史的価値を表す「H」ナンバーを導入。これが当たった。Hナンバー車は大きな改造が加えられていないことなどを条件に発行。ユーザーは自動車税減税や保険料の減免などが受けられる。ドイツの多くの都市で義務づけられている排ガス浄化装置の装着もHナンバー車は特別に免除される。初年度は1万3500台がHナンバーを取得。毎年ほぼ右

2011年末までに累計20万8千台に達した。あまりの需要の多さから投資対象としての評価も高まる。クラシック・シユタット館長のマーク・パウミュラーさんによると「購入客のなかには値上がり後の売却益目的で購入する人も多い」という。東証インデックスのように、オールドタイムの市況を示す専門の指数も登場。それによると約10年間で指数は2倍近く上昇した。

ツィンテルさんの70年製911Sも購入後2年間で取引価格は2倍になったという。「いずれはピカソやゴッホの絵画のような希少価値が出てくるのでは」とパウミュラーさんも期待する。好調なドイツ経済もオールドタイム人気を後押ししているようだ。

(フランクフルト
下田英一郎)

大塚商会
03-32647111